



開校150周年(明治6年開校)

ハートフル多西

令和6年1月9日(火)
あきる野市立多西小学校
校長 小原 太一

目標を立てる

明けましておめでとうございます。

新しい年がいよいよ始まりました。子どもたちはどんな年始を過ごしてきたのでしょうか。初日の出を見に行ったり、初詣に行ったり、おせち料理を食べたり、たこあげをしたり、お年玉をもらったり…と私は想像しますが、今の子どもたちは昔とは随分違う過ごし方をしているのではないのでしょうか。

年が明けると、気持ちがいったんリセットされ、「今年こそ〇〇に向けて努力していこう」と前向きな気持ちになるものです。私が子どもの頃は、新年の挨拶をした後に、必ず、家族が一人ずつ今年の抱負を話すという恒例行事がありました。しかし、毎年、目標を立てるものの、何かを成し遂げたという記憶はほとんどありません。そもそも年始に立てた目標自体を忘れてしまうことさえありました。

「一年の計は元旦にあり」という言葉がありますが、これは「一年の初めに目標を立てることが大切である」ということだけではなく、「何かを成し遂げるには、初めによく計画をしておくことが大切である」という意味と「目標を定め、決意を新たにすることが大切である」という意味があるそうです。きっと私には、この『計画性』と『決意』がいつも足りていなかったのでしょうか。私が唯一目標を達成することができたと感じることができるのは、「教員になる」という目標を立てた時でした。私が就職活動をしたのはバブル崩壊後すぐ「就職氷河期」と呼ばれている時代です。中々就職先が決まらなかったこともあり、後がなかった私の教員への思いは自然に強くなり、いつまでに何をすべきか計画を綿密に考えて実行することができました。私はこの経験から、目標達成には目標に対して強い思いをもつこと、いわゆる『決意』の大切さを学びました。

有名なスポーツ選手も『目標』とそれに対する『計画性』『決意』の大切さを話しています。プロ野球選手だった、イチロー選手は小学生の時にすでに「プロ野球選手になる」という目標を立てていたそうです。目標を達成している時点から逆算をして、毎日すべきことを考えて小さな目標を立て、毎日の練習に励んでいたそうです。高い目標だけでなく、日々の練習の中で達成可能な、手に届く目標をつくることで、それが積み重なって大きな目標を達成できたのでしょうか。また、同じプロ野球選手の菅野智之選手は「目標達成シート」として、マンダラチャートという枠を使って、目標達成までに必要なことを細分化しました。目標を立てるだけでは終わらせず、目標達成までの『計画』が明確であるという点が二人の共通点ではないでしょうか。

多西小学校の子どもたちにも、熱い思いをもって目指すことのできる目標を見付け、そして、明確な計画を立てて達成に向けて努力してもらいたいと強く思っています。このような経験は、子どもたちが自己実現を目指していく上でとても大切なことではないかと思えます。また、チャレンジすることに年齢は関係ありません。私たち大人も、同じように目標を立て、それに向けて努力していく姿を子どもたちに見せていきたいものですね。

3学期は授業日数52日と大変短いですが、1年間のまとめとなるよう、学習面、生活面共にしっかりと子どもたちをサポートしていきたいと思えます。保護者、地域の皆様におかれまして、本年も多西小学校の教育活動へのご理解とご協力をいただけますよう、どうぞよろしくお願いいたします。